

第4回米子市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会1グループまとめ

開催日：令和4年3月23日（水）

参加者：吉岡委員、吉野委員、中村委員、井上委員

米子市福祉政策課 山崎室長、藤井係長

【グループワーク内容】

- ・本委員会で取り上げた事例について、専門職がバラバラに動いている。総合相談支援センター長の力量が重要である。
- ・事例集を作成するとよい。
- ・本委員会で取り上げた事例について、アプローチが中途半端ではないか。祖母への受診勧奨について、認知症疾患医療センターや認知症初期集中支援チームの活用など他にも解決の糸口があると思う。
- ・周囲が気付いて相談することが大事。
- ・一体型支援のしくみが大切である。一体型支援を重層的支援体制とも呼ぶことがあるのだろうが、わかりにくい。
- ・ソーシャルワークの実践において、要になる役割の人がいないと難しい。福祉分野別ではなく、中核的な立ち位置で、職業としてソーシャルワークを実践する人が必要である。
- ・相談に来ない人への関わり方は家庭訪問が基本である。家族会等を組織化することが大切ではないか。
- ・人は、そもそも集まりたくない、相談したくないと思う人が多い。新しい社会資源をつくる試みと、家庭訪問等をしながら支援方法等のビジョンを組み立てていくことを、うまくいかななくてもいいから進めていくことが重要である。
- ・地元じゃないところで相談したい人もいるのではないか。近いところに相談しにくい。
- ・成功体験の共有が必要。
- ・情報が届きにくい当事者への周知方法をどうするか。回覧板だけでは不十分。自治会に加入していない人にも届くようにしてほしい。
- ・周知方法について、公共機関等に総合相談支援センターの連絡先を書いたシールを貼ってもらうのはどうか。
- ・総合相談支援センターの愛称を公募し周知するのもよい。
- ・「アウトリーチ」「プラットフォーム」の言葉がわかりにくく、正しく伝わりにくい。市職員も理解していないのではないか。「居場所」「家庭訪問」に変換するとわかりやすい。

第4回米子市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会2グループまとめ

開催日：令和4年3月23日（水）

参加者：安木委員、山中委員、三輪委員、平林委員

米子市福祉政策課 廣江係長、堀江主任

【グループワーク内容】

- ・総合相談支援センターについて、様々なケースが想定されるが、まずは現場に行き、実際に活動しながら臨機応変に対応することが大事ではないか。
- ・参加支援事業は、従来の福祉分野のみの横の連携だけでは、新しい発想が生まれずうまくいかない。民間企業との連携など、地域とつながるための仕組みづくりを新しい考え方でやっていかないといけない。
- ・米子市役所職員は、もっと外に出ていく活動をしていくべきである。
- ・民間企業との連携が必要である。総合相談支援センターの体制は、連携という点において民間企業への支援と通じる部分もあるため、センターへの助言等を今後もしていきたい。
- ・ケース対応において、チーム支援を行っていくにしても、誰がリーダーシップを取り責任を取るのかということが、今後課題となっていくのではないか。
- ・総合相談支援センターの職員は、支援のコーディネートや調整、困っている方の発見など相応のスキルが必要である。
- ・地域活動に意欲のある市民の方々を、どのように活動につなげていくかが課題ではないか。

第4回地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会3グループまとめ

開催：令和4年3月23日（水）

参加者：池田委員、深田委員、高野委員

米子市福祉政策課 武良係長

米子市社会福祉協議会福祉のまちづくり推進課 森本課長

【グループワーク内容】

- ・計画の策定段階から関わっており、具体的な総合相談支援センター開設まで繋がったことは良かったと感じている。
- ・子育てに関する相談の窓口が増えることは安心につながる。公民館で子育て相談を受けているが、なかには大変な相談もあり、総合相談支援センターにつなぐ形ができると良いと思う。
- ・利用者がきちんと相談に来るような周知ができるのか、これまで以上の相談支援になるのか心配している。
- ・民生委員をしているが、関わりを拒否される世帯もある。個別の相談を地域活動につなげることも含めて、センターが必要な支援に役立つかが気にかかる。
- ・困難ケースに対して、これまで縦割りだったものがチームを作って対応していくことは大きな前進である。ケース対応を積み上げていく中で活動を充実させていくことにも期待している。
- ・市職員は異動がある。困難ケースをコーディネートできる専門職の確保が必要である。
- ・相談が多数入ってきたときにセンターの手が回るのか心配する。
- ・困りごと相談所ということで案内しても良いのか。たらいまわしにならないよう、適切な窓口につなげてもらうことをお願いしたい。これまでの相談の流れと変わらないケースも多くあるのではないか。
- ・じっくり相談を聞いてもらえるような体制をお願いしたい。また、担当が変わっても分からないということは無いようにしてもらいたい。
- ・センターだけで全ての相談を受けるのではなく、公民館が初めの相談窓口になると良いと思う。公民館職員と地域との関わりが少ないことが課題であり、コミュニティセンターとなるのであれば、地域住民とつながるためにも相談窓口の役割を持つてはどうか。
- ・公民館に住民が相談するだろうか。地区によって違いはあるが、現状公民館は部屋を使う人のためだけのものになっている。現状では公民館職員に相談するイメージは湧かない。

第4回米子市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会4グループまとめ

開催日：令和4年3月23日（水）

参加者：手島委員、足立委員、植村委員、岩永委員

米子市福祉政策課 末次主任

米子市社会福祉協議会福祉のまちづくり推進課 高砂主幹、谷口副主任

【グループワーク内容】

・総合相談支援センターを設立しても、活用されなければ意味がない。活用されるためには広報が重要であるが、米子市発行の広報誌を読まない人もたくさんいる。障がいのある方には、広報誌のみでは情報が行き届かない。しっかりと市民に情報が届く形で、総合相談支援センターの広報をお願いしたい。

・米子市発行の広報誌等の漢字にフリガナがふってあるのか。困りごとを抱えている方の中には漢字が読めない人もいる。全ての市民に届くような広報をしてもらわなければならない。広報誌を作成する前に障がい者団体に声をかけてもらえたら、内容について指摘を行うこともできた。

・今回、新たに総合相談支援センターが設置されるが、期待はしていない。これまでも要介護認定等の福祉相談を各窓口にしてきたが、窓口対応をする市役所職員の対応に不十分さを感じている。もっと市役所の窓口業務をする職員は勉強するべきである。私が何か困りごとを相談するときは、まず米子市社会福祉協議会の担当者に相談する。その担当者は、相談すると必ず応えてくれる。そのような信用できる職員がいるかが総合相談支援センターにおいては肝要ではないか。実際に「信用できる」と思えるような実績を出してもらえないと、他の人にも紹介できない。

・総合相談センターが開設されたことによって、市役所の中でたらい回しが悪化しないようにしてほしい。最終的な責任の所在も明確にしてほしい。

・総合相談支援センターには教育委員会は関わっていないのか。教育委員会の関係者が障がいに対する理解が乏しいと感じている。